



今年の干支は「辛丑」です。干支とは、正式には「十干十二支」といい、十干とは、甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十、十二支は子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二から成ります。

十干は、木火土金水の五行を基本としており、例えば甲は「きのえ」、乙は「きのと」と呼び、それぞれ「木の兄」「木の弟」という意味で兄は陽、弟は陰を指し、陰陽五行説の暦法の一つです。十二支はその木火土金水から成る、生命のうごきを表したものが本義で、誕生から次の生命への流れを表していますが、覚えやすいように動物が当てはめられたのが、いまの干支です。

その干支の中でも、本年は辛丑(かのとうし)年で陰陽五行に則れば、「辛(かのと)」は金性の陰年を示し、同音の「新」につながり、植物が枯れて新しい世代が生まれようとする年まわりとされます。十二支の「丑」の字は、干支が考案された古代中国では、紐の意味に通じ、芽が種子の中でヒモのようにぐねぐねとして、まだ伸びる前の状態を表しているとされています。

この辛丑の年を総じて判じますと、新しき芽吹きに当たって、胎動著しい年まわりといえるのかもしれない。

また動物のウシに目を移しますと、人類の農耕牧畜の歴史は即ちウシとの歴史といえ、最も付き合いの長い動物の一つです。また世界の宗教の中で、ウシは神の化身とされる事が多く、日本におきましては、当宮の御祭神でもあられます、天神さまこと菅原道真公のお使いの動物がウシとされています。これは道真公が、丑年丑月丑の日の生まれという伝説や、ご逝去の際、棺を載せた牛車が途中で動かなくなり、これは道真公がここに葬ってくれと、ウシに伝えられているのだと感じ得た人々によってその地に葬られ、そこが現在の太宰府天満宮になったといわれており、それらの故事からウシが神使とされました。

コロナ禍未だに大変なる状況ではございますが、神牛に導かれるように、徐々に徐々に、ウシの歩みで一歩ずつでも、良い方向に向かう、そうした年まわりとなりますよう、皆様の開運招福とご平安を祈念し、本年何よりもお休お大切に頂きますようご祈念申し上げます次第です。

ワクチンと白神

再度のコロナ禍の緊急事態宣言で大変なる中ですが、ワクチン開発も進み、少しずつ希望が見えてきています。そのワクチンという言葉が日本に初めて入ってきた明治時代、充てられた漢字は「白神」と書きました。なぜこの字が充てられたかというところ、諸説ありますが、その一つに、この大阪で人類史上最初のワクチンである牛痘種痘法(天然痘ワクチン)を広められた道塾の緒方洪庵先生の貢献によるものといわれています。

日本に牛痘が初めて入ってきた時、当時の人々は欧米からの訳の分からない牛の液体なぞ体に入れたら、牛みたいに角が生えたと恐れ、中々摂取に協力的ではありませんでした。そこで緒方先生は「これは靈験あらたかな、白き神牛から授かった液体であり、これを受ければご利益を頂き、疱瘡神に打ち勝つ」と民衆にわかりやすく錦絵まで作って情報発信に努め、その甲斐あって、早い段階で大阪はワクチンが普及しました。これがワクチンの当てる字に「白神」と書いた由縁と言われています。そして本年は丑年、このコロナ禍も、白き神牛が暮末、ウイルスとの戦いで、陰の勝利の立役者になったように、疫難を被え遣り、一日も早く平安を取り戻す日々となる事を願うばかりです。

厄年の御祈禱

当宮では厄年の厄除け祈禱を受け付けております。左表にもあります通り、それぞれ厄年がございますが、特に数え年の男性四十二才(昭和五十五年生)、女性三十三才(昭和六十四・平成元年生)の本厄の方は、大きな厄年となります。

厄除け祈禱はそういった年回りに、災厄が訪れないようにと祈る御祈禱で、年中お受付していますが、節分の時期にお受けになれるのが吉とされています。当神社での御祈禱はご予約制ですので、事前にお電話かメール等でご予約下さい。(初穂料五千元)

- 御本社(神山町) 〇六一六三六一―二八八七
御旅社(茶屋町) 〇六一六三七一一一五八六

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 平成, 昭和, 令和. Includes age ranges in parentheses.

Table with 3 columns: 前厄, 本厄, 後厄. Rows for 平成, 昭和, 令和. Includes age ranges in parentheses.



網敷天神社 SNS、地図サイト

編著 網敷天神社 禰宜(御旅社 神主) 白江 秀 知

